

CRS データベース テーブルのエクスポート - Microsoft SQL 2000 Server

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[テキストファイルへのエクスポート CRS 表](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

この資料は Cisco Unified Contact Center Express 環境のテキストファイルに Cisco カスタマ 応答ソリューション (CRS) データベーステーブルをエクスポートするために方式を記述したものです。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントの読者は次のトピックについて理解している必要があります。

- Cisco CRS
- Cisco CallManager
- Microsoft SQL

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco CRS バージョン 3.x
- Cisco CallManager 3.x
- Microsoft SQL 2000 サーバ

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

CRS、db_cra および db_cra_ccdr と関連している 2 つのデータベースがあります。これらのデータベースは次のような表が含まれています:

- AgentConnectionDetail
- AgentStateDetail
- アプリケーションの
- ContactRoutingDetail
- ContactServiceQueue
- CRSProperties
- DataSynchFlag
- DBInfo
- debugflag
- dgeb_bin_wfnuance
- dgdb_src_wfnuance
- dgdb_timestamp_wfnuance
- HistoricalUsers
- ProductInfo
- ProfileIDMapping
- PurgeConfig
- RemoteDBAddress
- リソース
- ResourceGroup
- ResourceSkillMapping
- RtCSQsSummary
- RtICDStatistics
- スキル
- SkillGroup
- sqllogging
- WorkflowTask

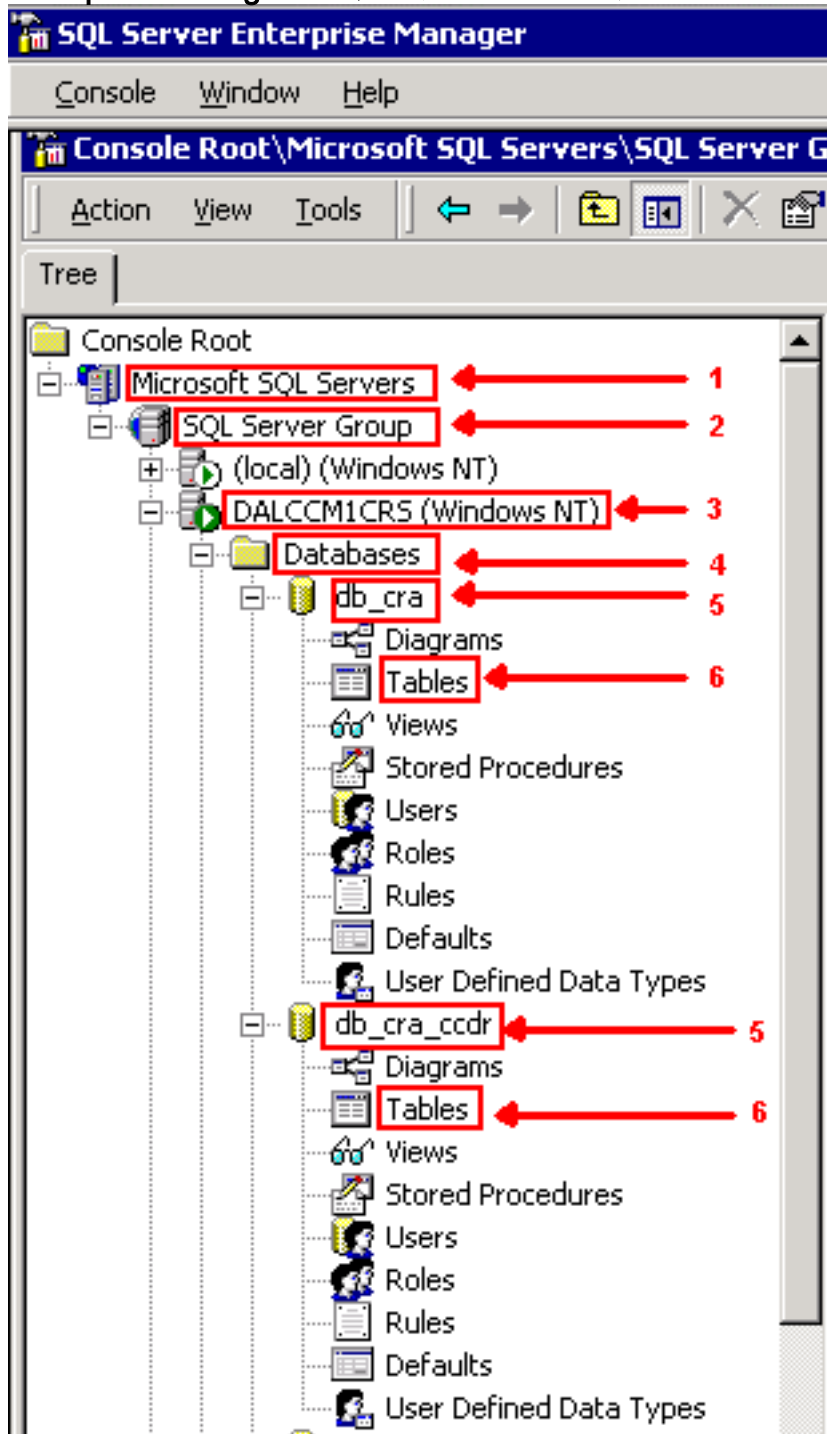
db_cra_ccdr 表がのような、ContactCallDetail 含まれています。

テキストファイルへのエクスポート CRS 表

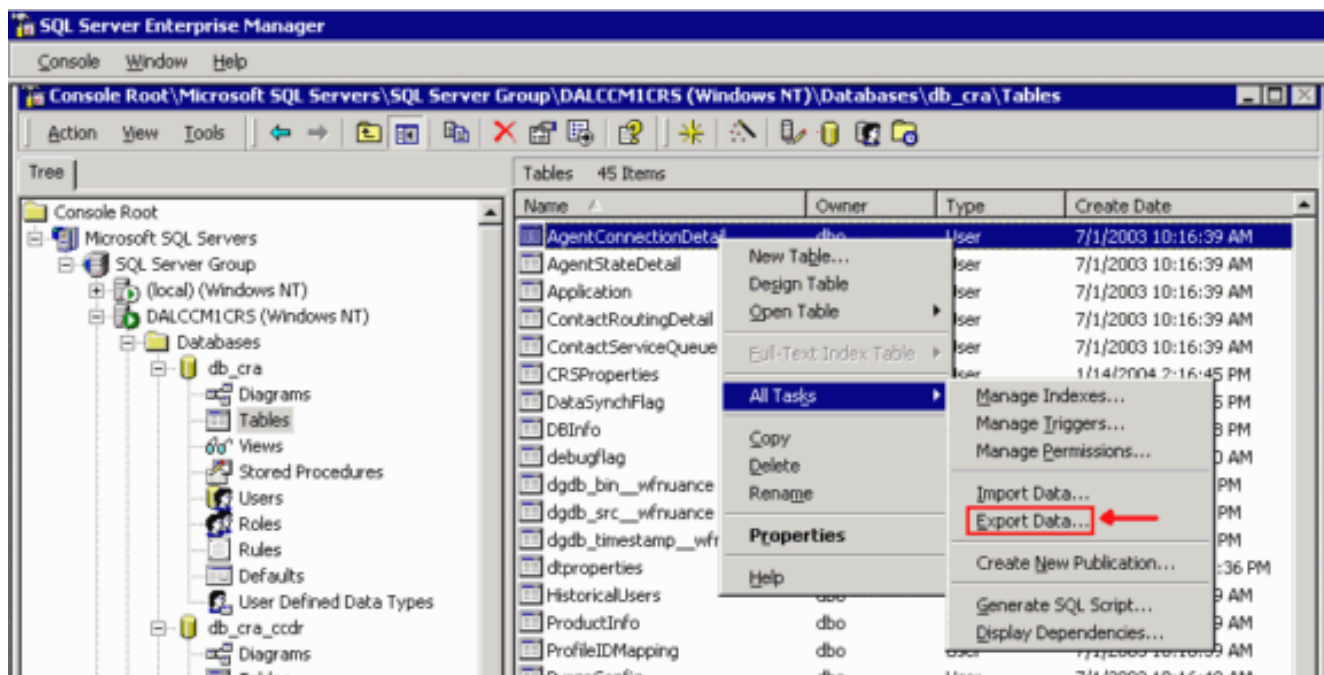
CRS データベース形式の最も低い分母はフラット ファイルです。時間を計りますテキストファイル、Excel スプレッドシート、または Microsoft SQL Server 2000 年によってサポートされる他の形式のそのようなファイルにデータをエクスポートする必要があります。次のプロシージャがテキストファイルに CRS 表をエクスポートするのに使用されています:

1. SQL サーバ Enterprise Manager を Start > Programs > Microsoft SQL Server > Enterprise Manager の順に選択 します開いて下さい。
2. サーバに接続して下さい CRS データベースが含まれている。

3. db_cra のテーブルレベルにナビゲートすれば左ペインの db_cra_ccdr、[図 1](#) に示すように、+ クリックします。数は図 1 ナビゲーションパス順序を表します。**図 1: SQL サーバ Enterprise Manager --- ナビゲーションパス**



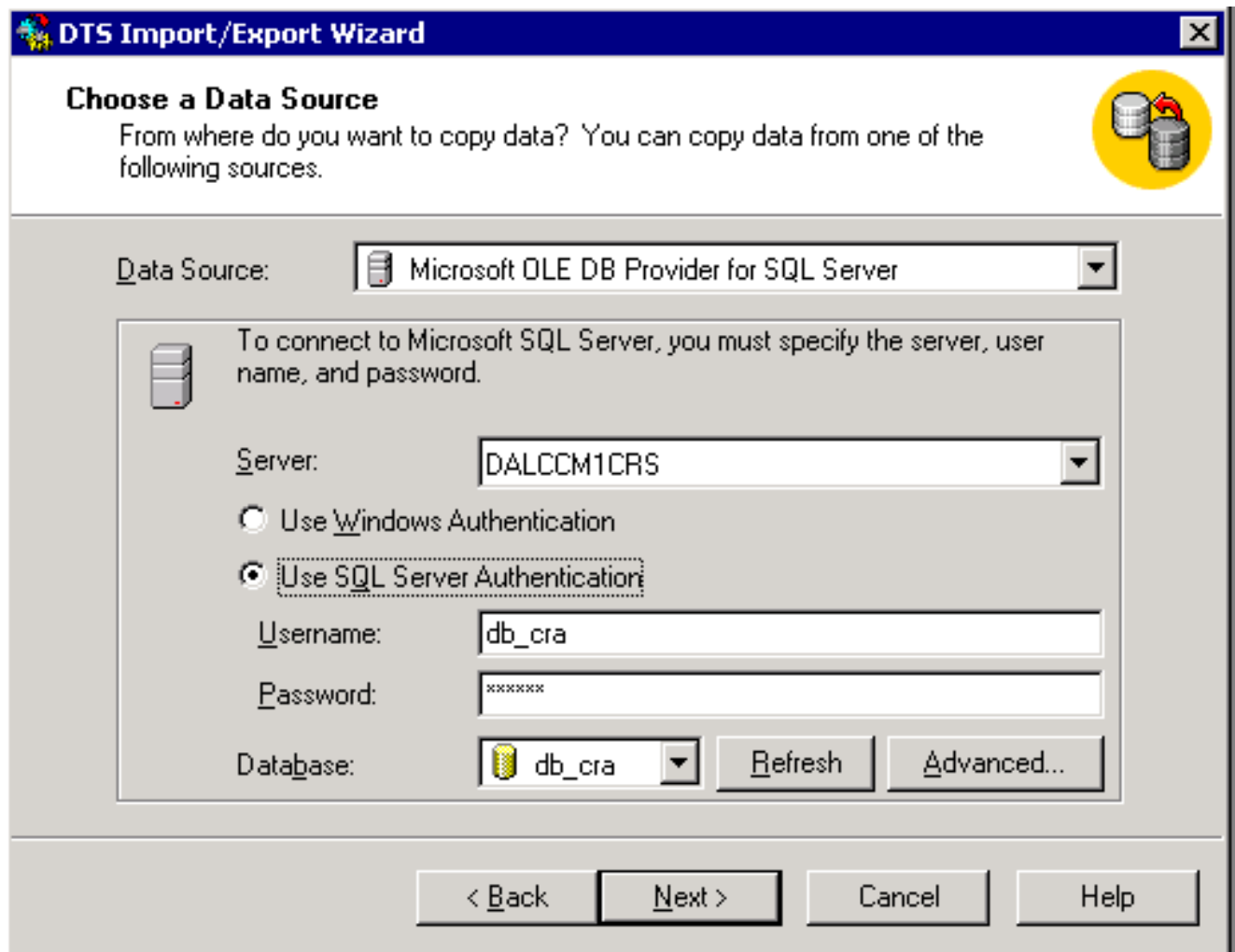
4. 右のペインのテーブル名を右クリックして下さい。
5. [図 2](#) に示すようにメニューから、All Tasks > Export Data の順に選択して下さい。**図 2: エクスポートすべき表の選択**



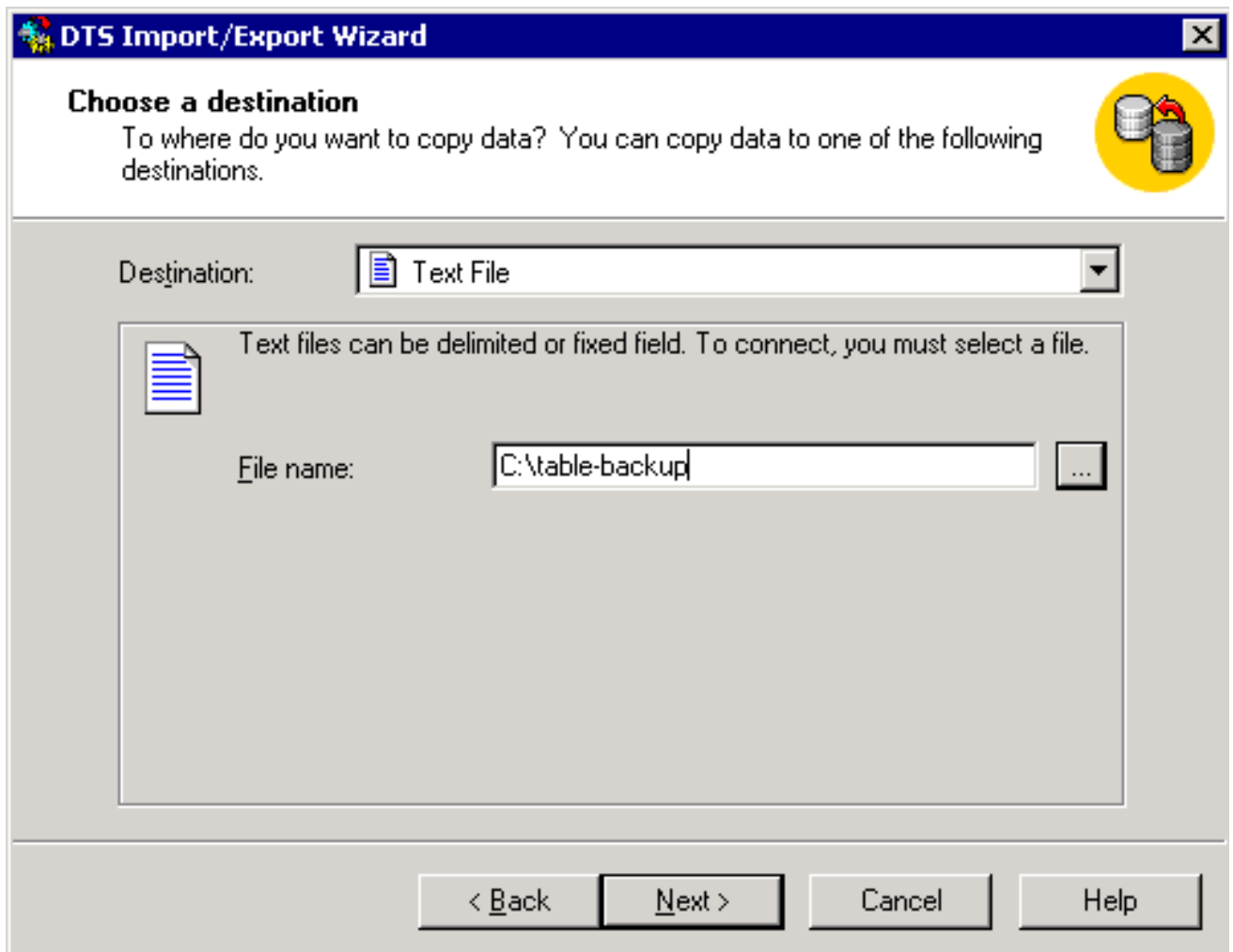
DTS インポート/Export ウィザード 画面は [図 3](#) に示すように現われます。[図 3](#) : DTS インポート/Export ウィザード



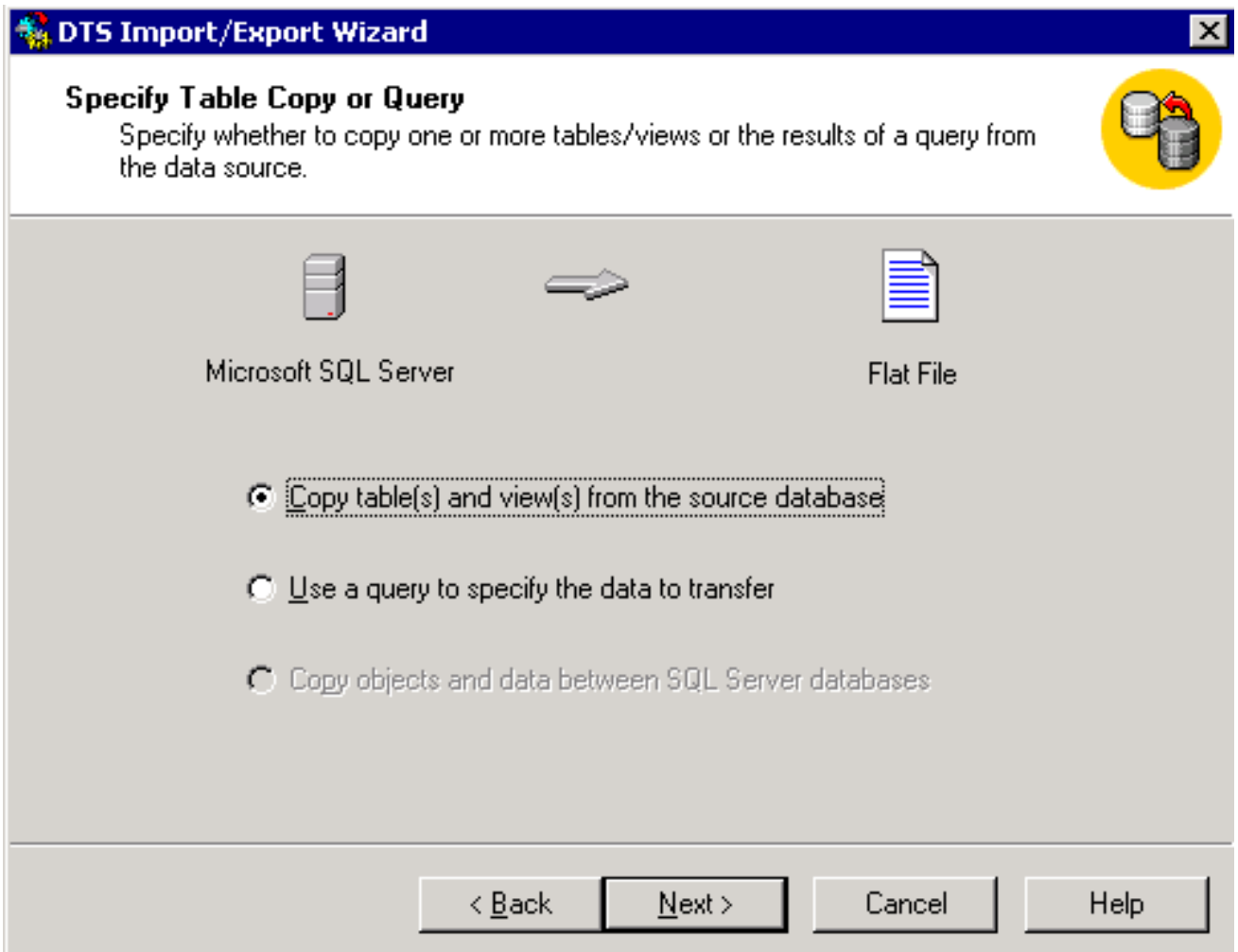
6. [Next] をクリックします。データ ソース画面が現われる [図 4](#) に示すように選択。[図 4](#) : データ ソースを選択して下さい



7. Use SQL Server Authenticationオプション・ボタンを選択するためにクリックして下さい。
8. ユーザ名とパスワードを入力します。
9. Database フィールドの矢印をクリックし、使用したいと思うデータベースを選択して下さい。
10. [Next] をクリックします。宛先画面が [図 5](#) に示すように現われる選択。 [図 5](#) : 宛先を選択して下さい

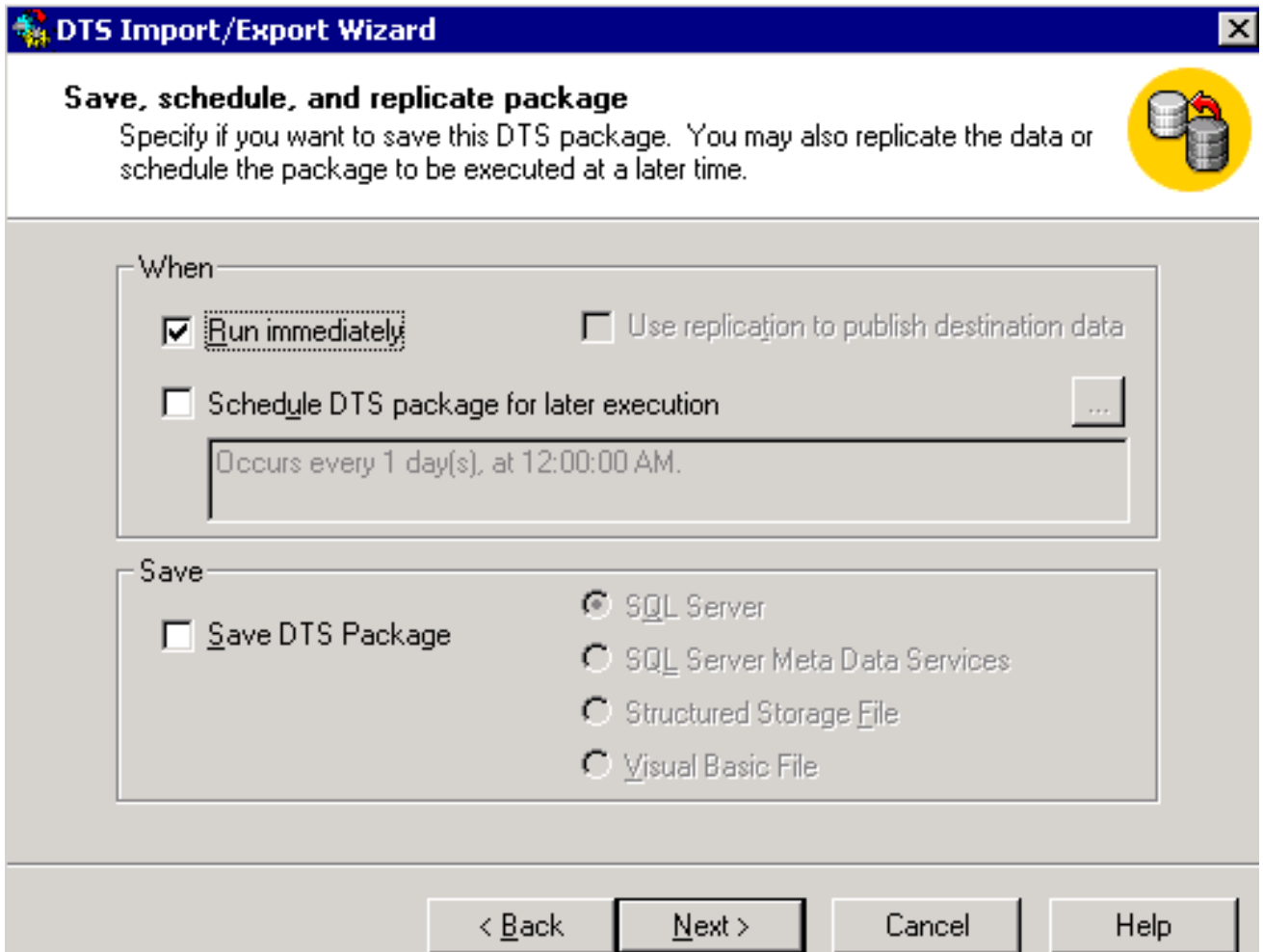


11. 宛先フィールドで、エクスポート データ 形式を選択して下さい。
12. **ファイル名**を入力して下さい。
13. [Next] をクリックします。 **規定表コピーか Query 画面は**[図 6](#)**に示すように、現われます。**
図 6：表コピーかクエリを規定して下さい



14. 出典 Database オプション・ ボタンからコピー表および意見を選択するためにクリックして下さい。
15. [Next] をクリックします。 選定された先ファイル ファイル形式画面は [図 7](#) に示すように、現われます。[図 7](#)： 先ファイル ファイル形式を選択して下さい

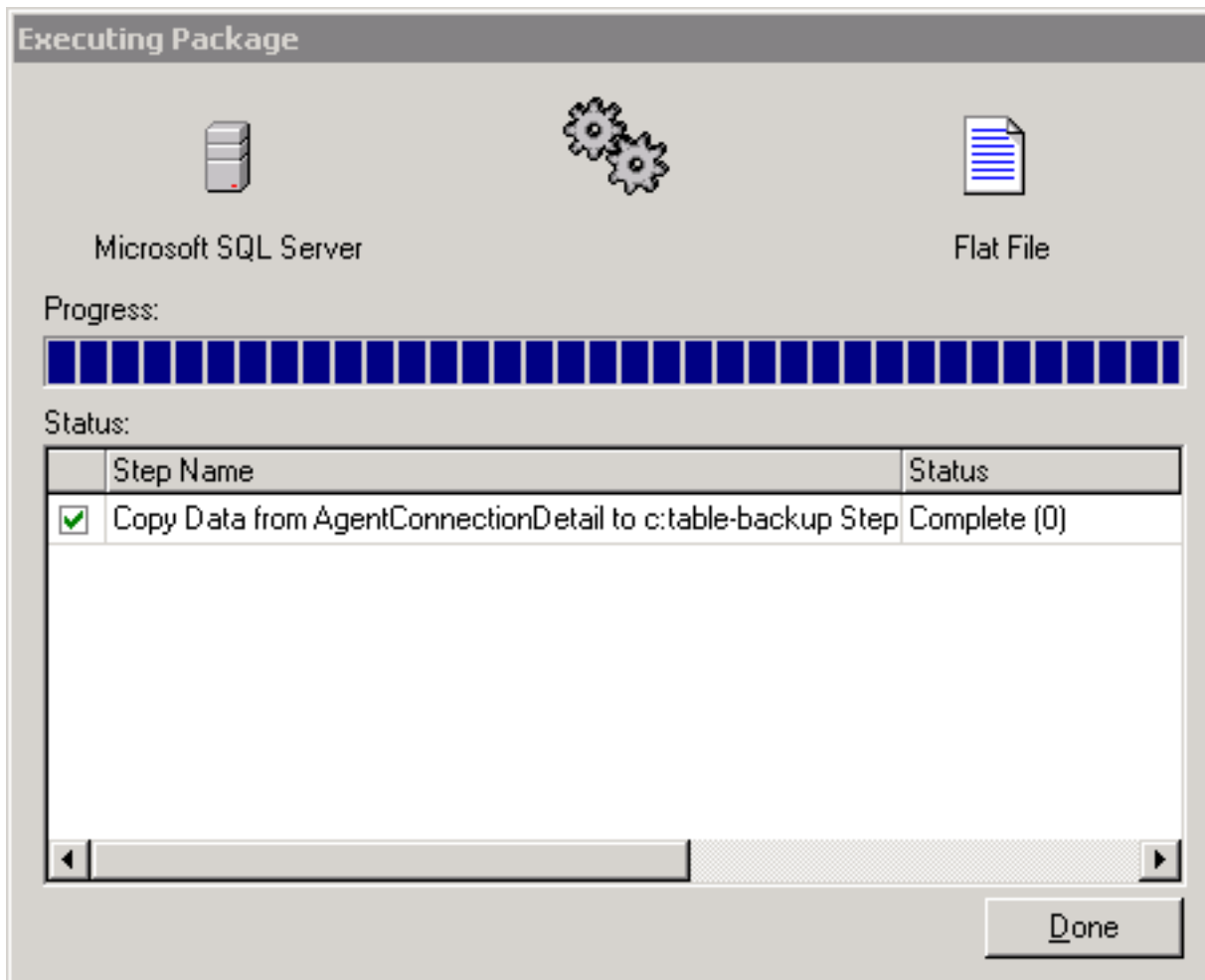
16. エクスポートしたいと思う表を選択して下さい **Source** フィールドの矢印をクリックして下さい。
17. **区切られるか、または固定される**形式を選択するためにクリックして下さい。注: デフォルトは二重引用符、フィールド囲まれますカンマがフィールドを分割する区切られた形式ファイルを作成することであり、行区切り記号はキャリッジリターンおよびライン フィードです。
18. [Next] をクリックします。保存、スケジュールおよび反復実験パッケージ画面は [図 8](#) に示すように、現われます。 [図 8](#) : 保存、スケジュールおよび反復実験パッケージ



19. この画面で、より遅い実行のためのすぐにまたはスケジュール DTS パッケージ実行される選択して下さい。この場合、『Run immediately』を選択して下さい。
20. [Next] をクリックします。DTS インポート/Export ウィザード画面を完了することは現われます。図 9：DTS インポート/Export ウィザードの完了



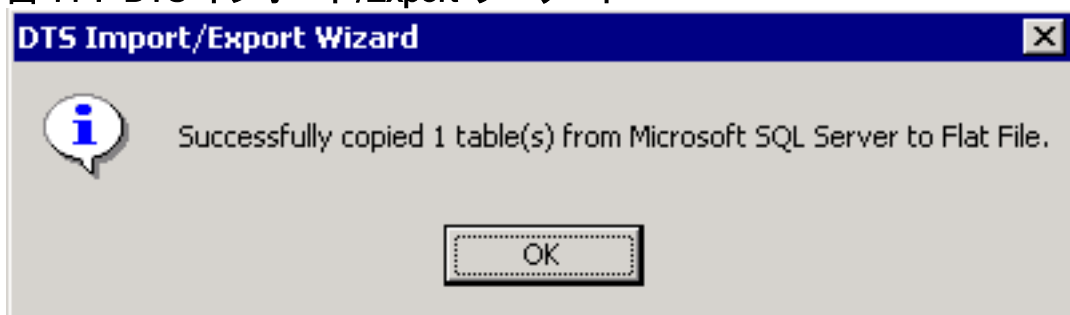
21. [Finish] をクリックします。**Summary** セクションは前の手順の選択の要約を表示します。
22. [Next] をクリックします。実行パッケージ画面は [図 10](#) に示すようにファイルを、現われ、書きます。[図 10](#) : パッケージの実行



23. タスクが正常である場合、このメッセージが現れます:

Successfully copied 1 table(s) from Microsoft SQL Server to Flat File.

図 11 : DTS インポート/Export ウィザード



SQL サーバからあらゆる形式に限り OLE DB ドライバが宛先のために存在 する ODBC ドライバ データをエクスポートできます。

関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)